

初体験から半年後の姉と弟



「みのる
朝だよ」



「おて...と」

「はじめますか」

ザチャ

性行為を
覚えてしまった
姉と弟の
その後



あとり
秋尚



「…ん
お姉ちゃん」

「あっ起きちゃった？」

「ちよつと待ってね
ちやつちやと済ませるから
おちんちんだけ使わせて」

「うん いい…よ…く…」



「ああやっぱり
朝するのが気持ちいい」

「すごい昨日の夜
あんなにやったのに
ちゃんと今朝も
硬くなってる」

「もう絶対
すつきりしてから
朝練に行くのが
日課になってるよね
…あ… イキそう…」

ぬちゅ

ぬちゅ

ギシッ
ギシッ
ギシッ



「いいよ出して
お姉ちゃんも
もう…す…ぐ…」



「はん…ん…
あぁ…」

「うう…」

「あぁみのる
すごい出てる…」



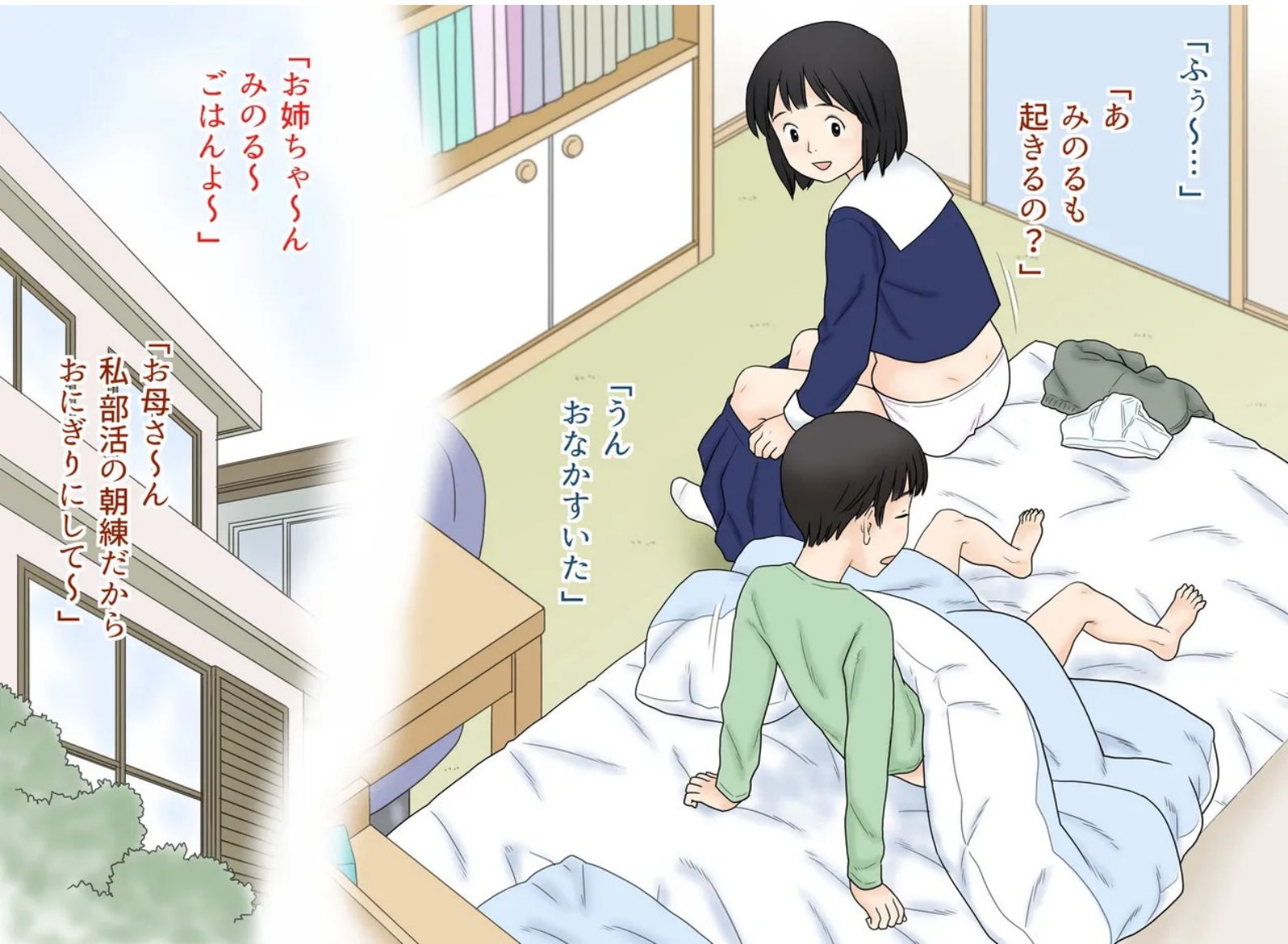
「ふう〜…」

「あ
みのも
起きるの？」

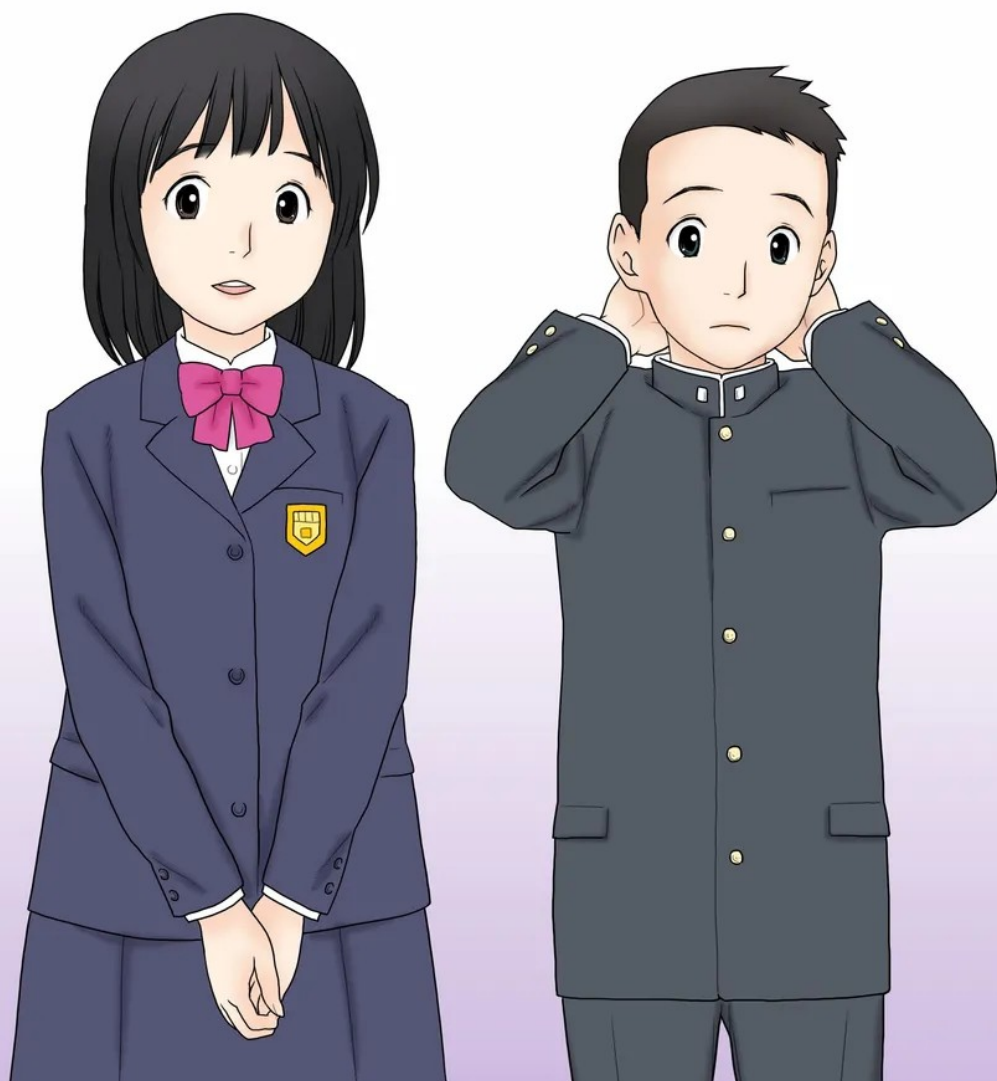
「うん
おなかすいた」

「お姉ちゃん
みのる
ごはんよ〜」

「お母さん
私部活の朝練だから
おにぎりにして〜」



初体験から2年後の姉と弟



「今日お父さんたち
帰らないのよね」

「うん」

法事の手伝いとかで
帰るのは明日の夜だつて」

「じゃあ二人で留守番かあ」

「ねえみのる
久しぶりに一緒にお風呂
入ろっか」

「えっ？」



「お風呂？
いいよ」

「姉ちゃん
おっぱい大きく
なった？」

「みるだつて
身長すごい
伸びてない？
お姉ちゃん
抜かれそう」

「姉ちゃんなんか
時間の問題だね
ぶつちぎるから」

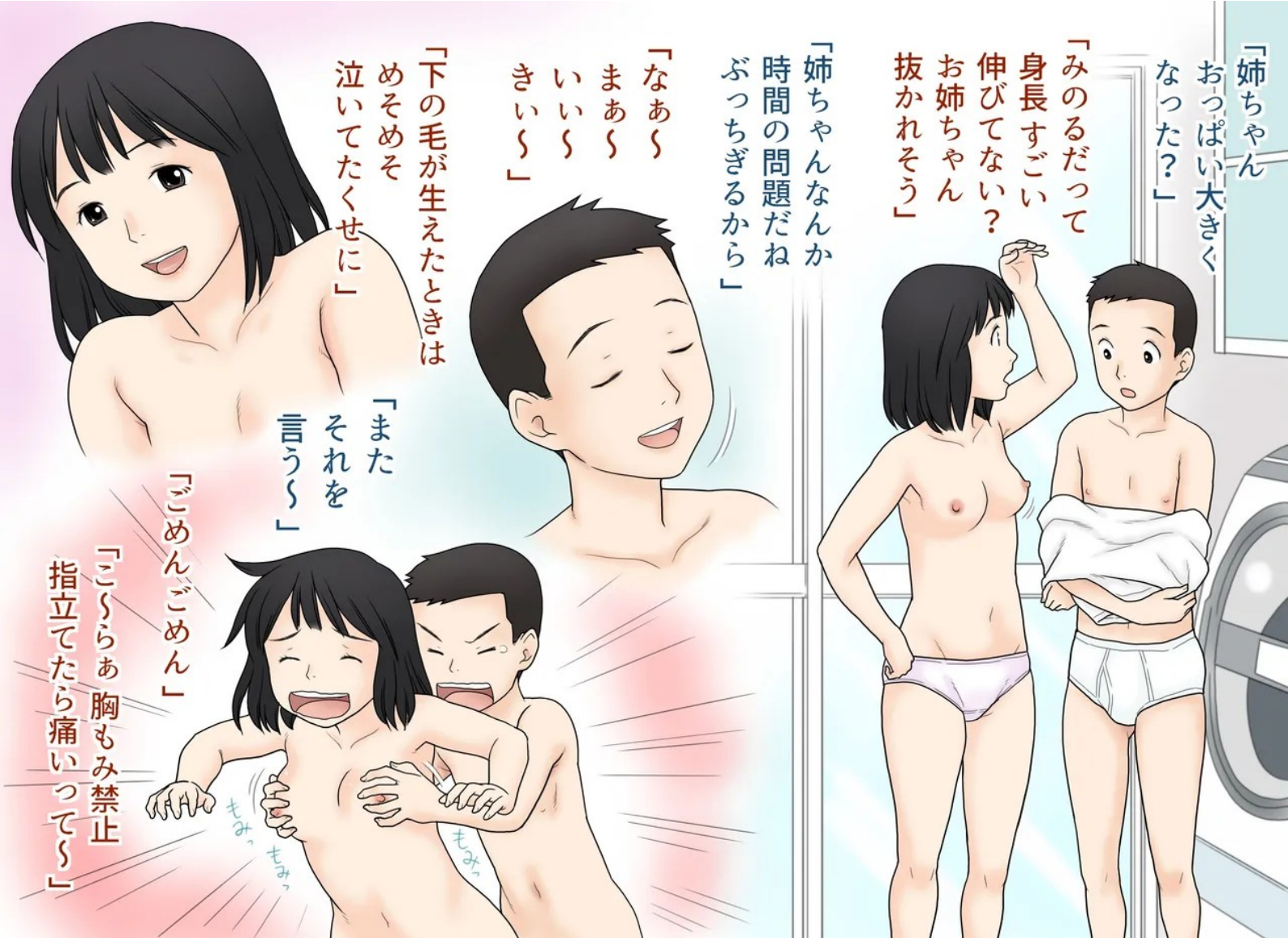
「なあゝ
まあゝ
いいゝ
きいゝ」

「下の毛が生えたときは
めそめそ
泣いてたくせに」

「また
それを
言うゝ」

「ごめんごめん」

「こゝらあ 胸もみ禁止
指立てたら痛いってゝ」





「本当に久しぶりだね
二人で入るの」

「う…うん」

「はいはい
さつきからずっと見てるよね
いいよ吸っても」

「かまないでね」

「う
うん」

「わかってる」

「もっと強く
吸ってもいいよ」

「ん…」

「ねえみのる
おっぱい
吸いながら
おちんちん
入れて…」

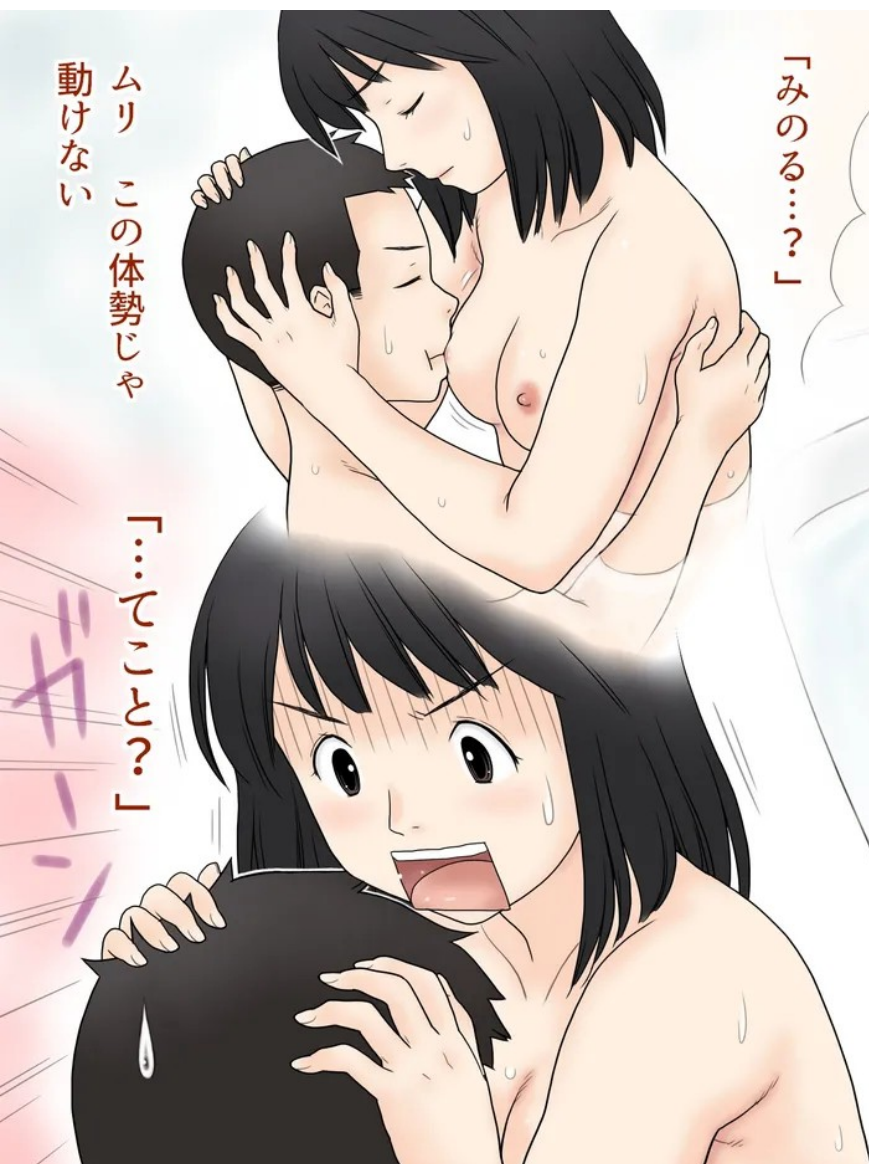
「んっ…」

「そうそこ
当たってる…」

「んっ…」

「ああ…」





「仕方ない
お姉ちゃんが動くよ」

「んん」

「上下はムリっぽいから
横に動くって感じかな？」

「んっん…」

「悪くない？
じゃあこんなの？」

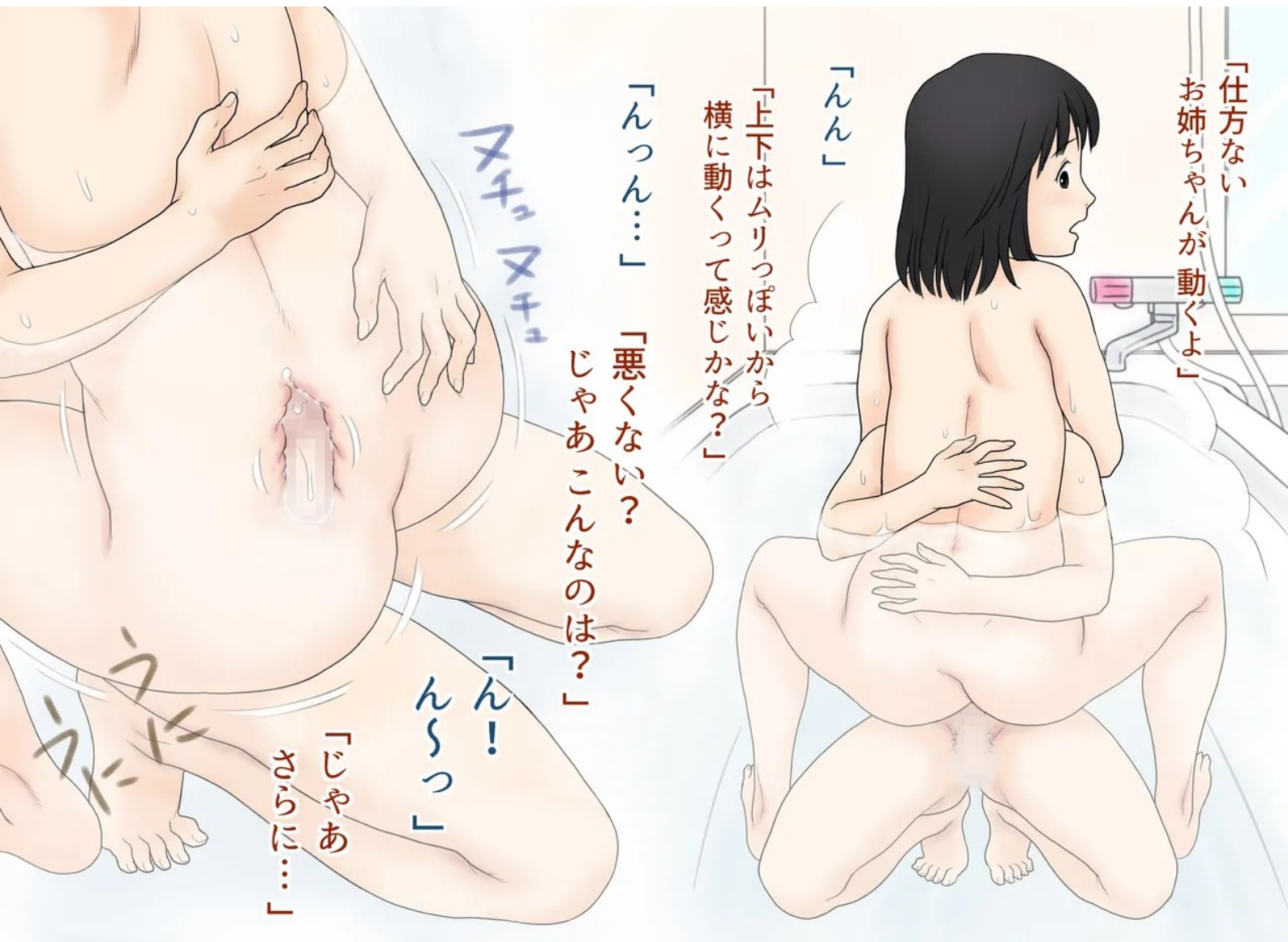
ヌチュヌチュ

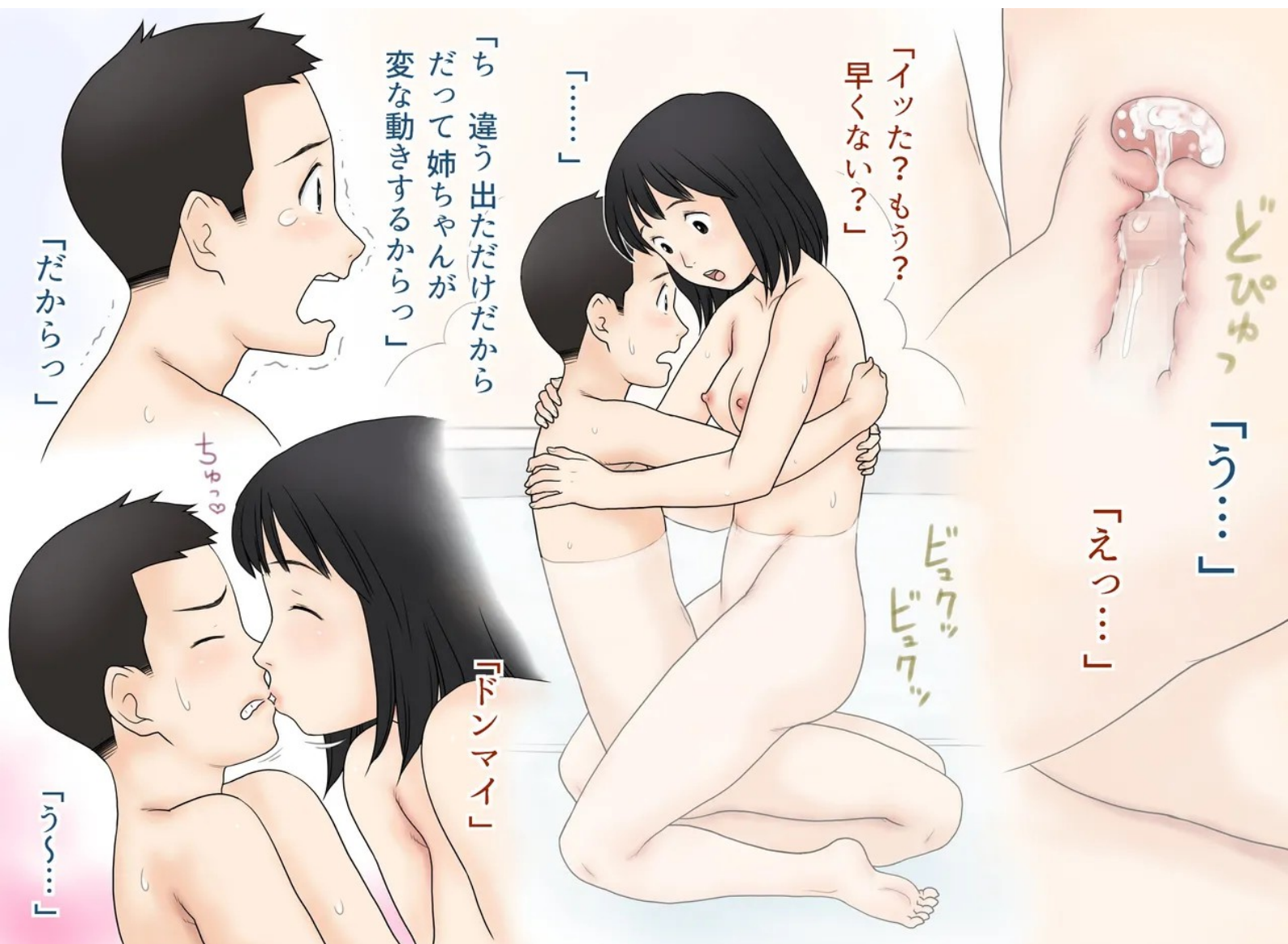
「ん！」

んっっ

「じゃあ
さらに…」

うに
うに





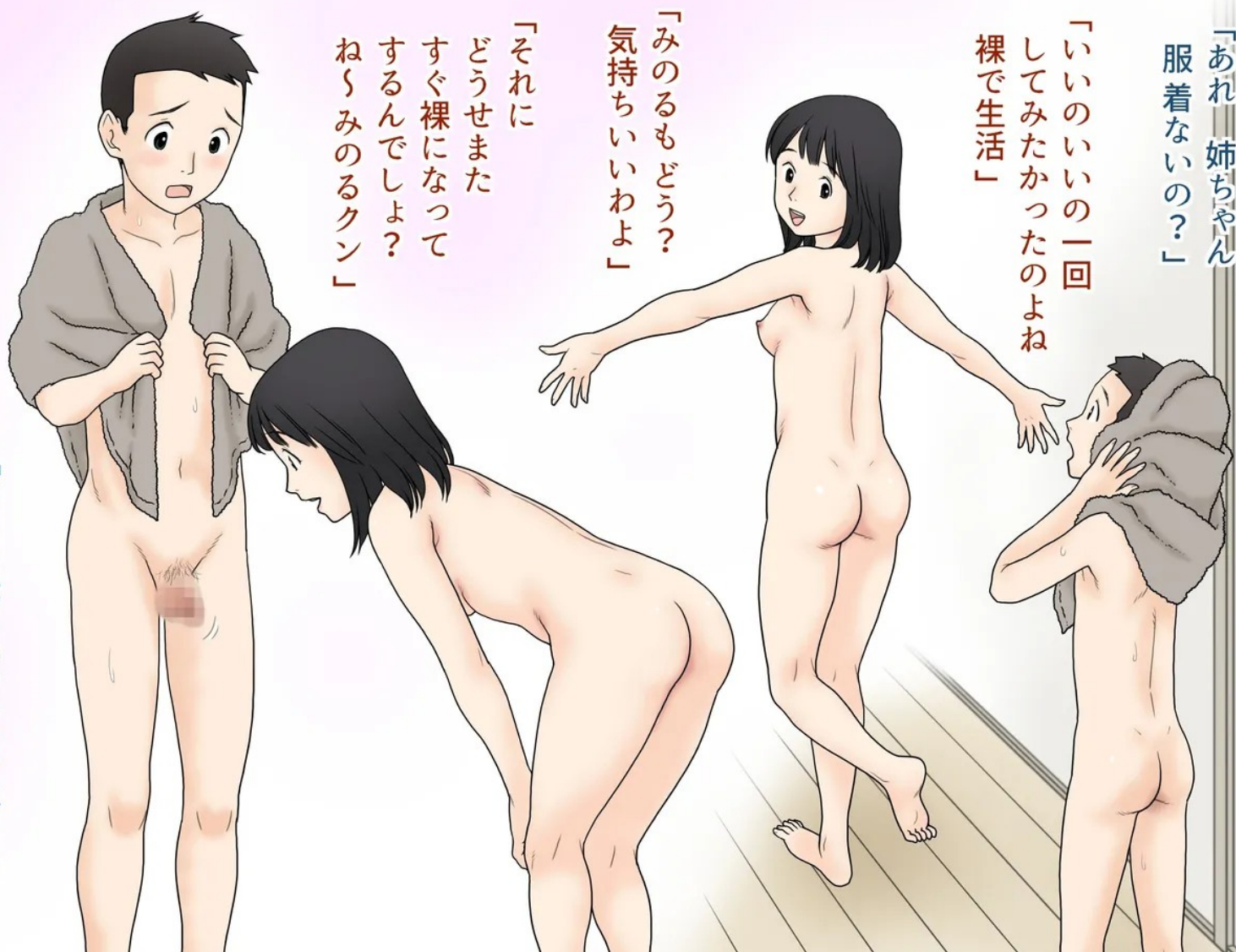
「あれ 姉ちゃん
服着ないの？」

「いいのいいの一回
してみたかったのよね
裸で生活」

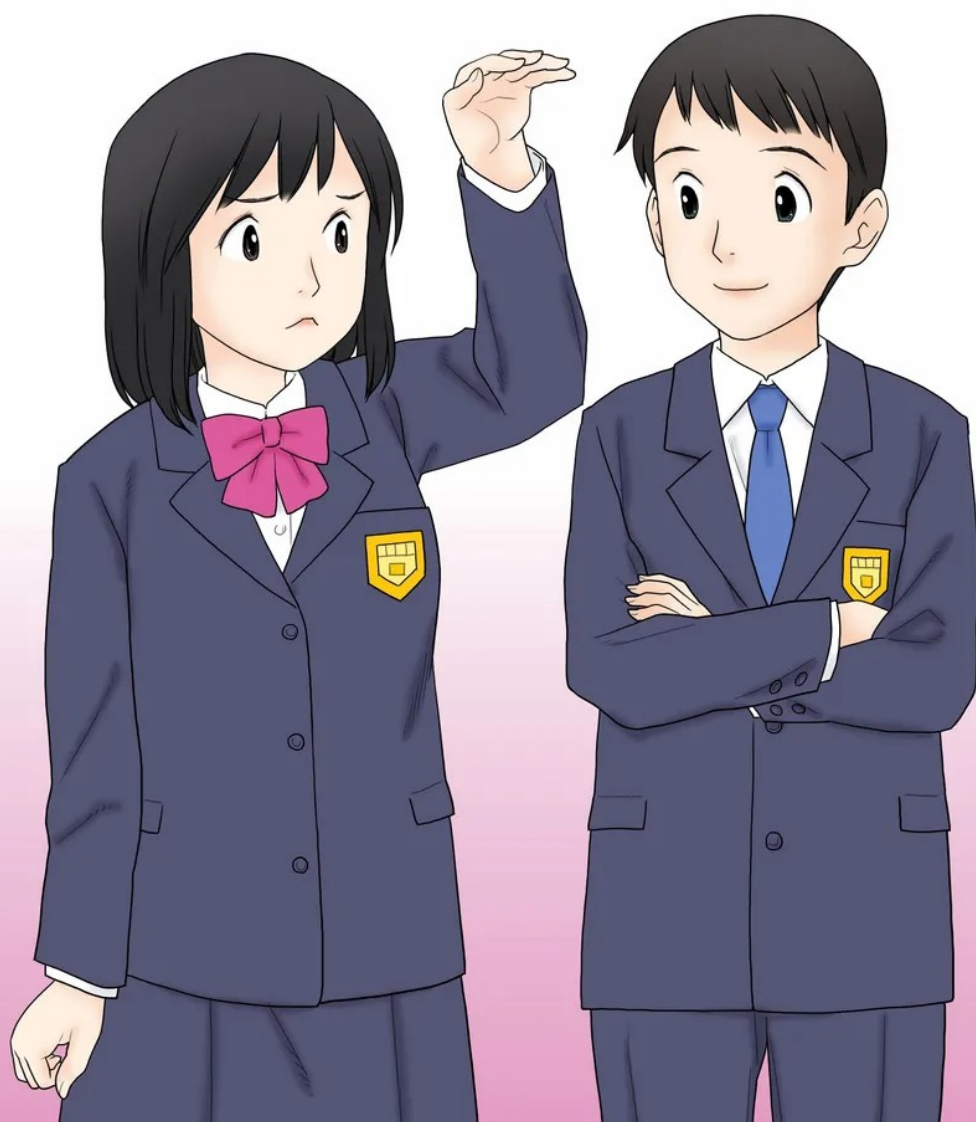
「みるもどう？
気持ちいいわよ」

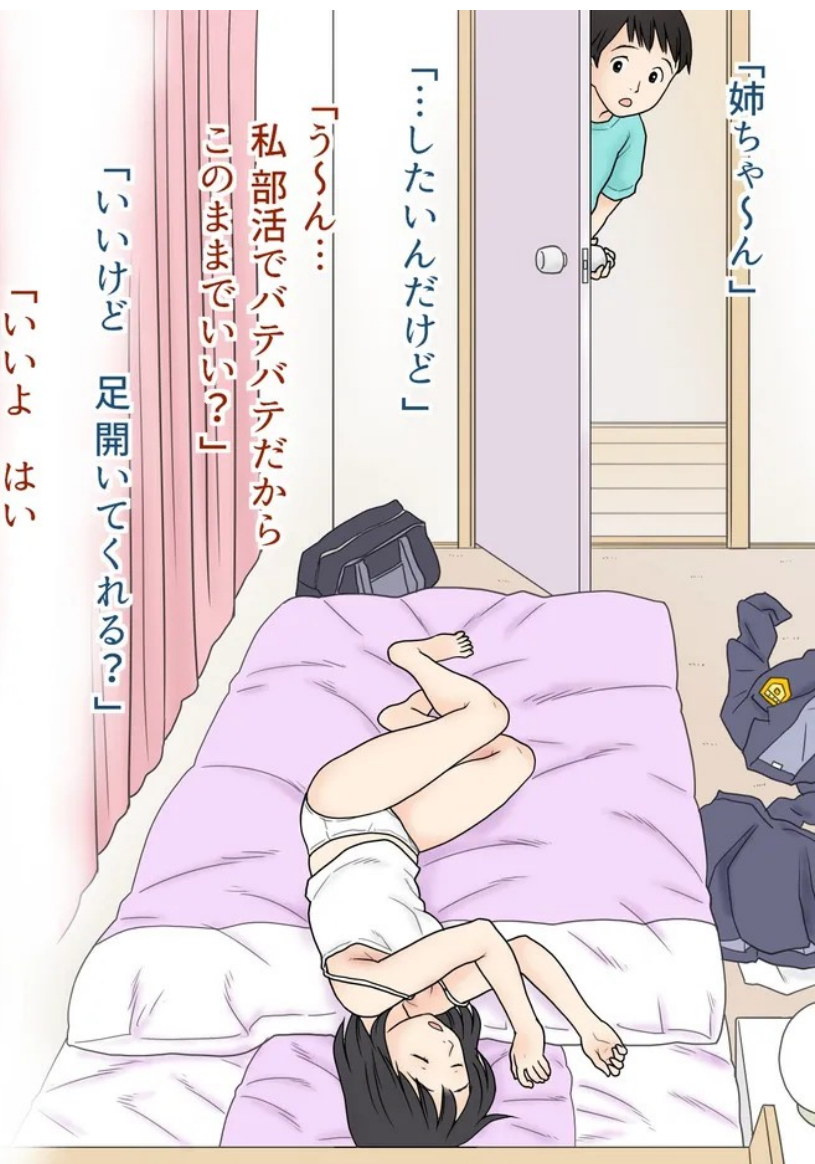
「それに
どうせまた
すぐ裸になって
するんでしょ？
ねーみるのクン」

「どこに話しかけてるんだよ」



初体験から4年後の姉と弟





「あのさく姉ちゃんと同じ部に
僕のクラスの男子が
何人かいるんだけど
いろいろ聞かれるんだよな
彼氏いるのかなとか
家でどんな感じ?とか」

「変なこと

言ってるじゃないか」

「言ってるじゃないけど」

でも姉ちゃんって

意外ともてるんだなって

思ってる」

「みるだって

もてるの

くせに」

「えっ」

「今年のバレンタインデー
チョコ2つももらったんでしょ?」

くちゅ

くちゅ

「チヨコ2つって姉ちゃんと母さんだし」

「わああゝっ」

「ひッ」

「ちょ
ちよつとみる
乱暴に突かないでっ
奥に当たってる」



「こうなったら奥の手
負けないわよっ」

「んっ」

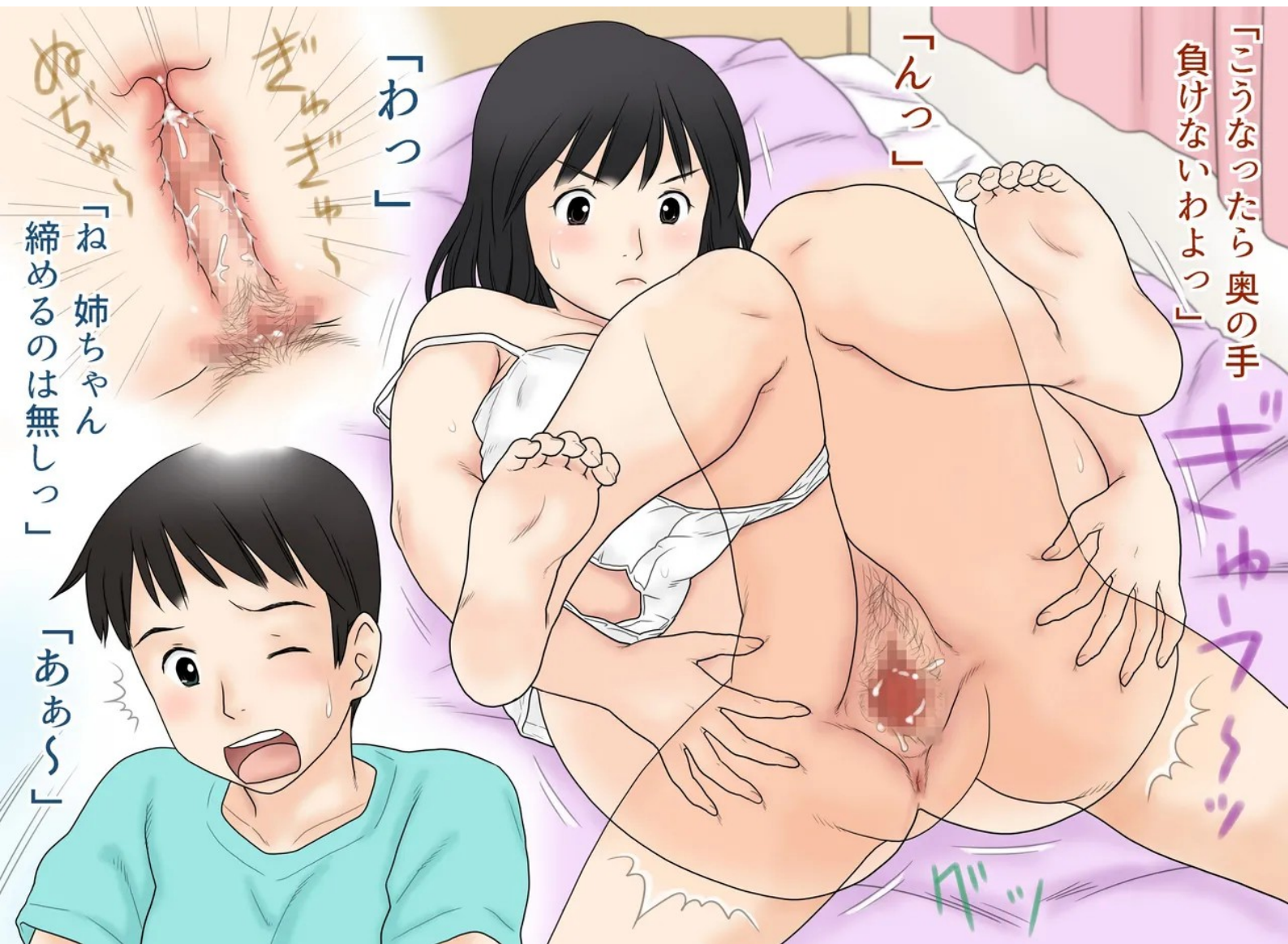
「わっ」

ぎゅぎゅ

ねっ

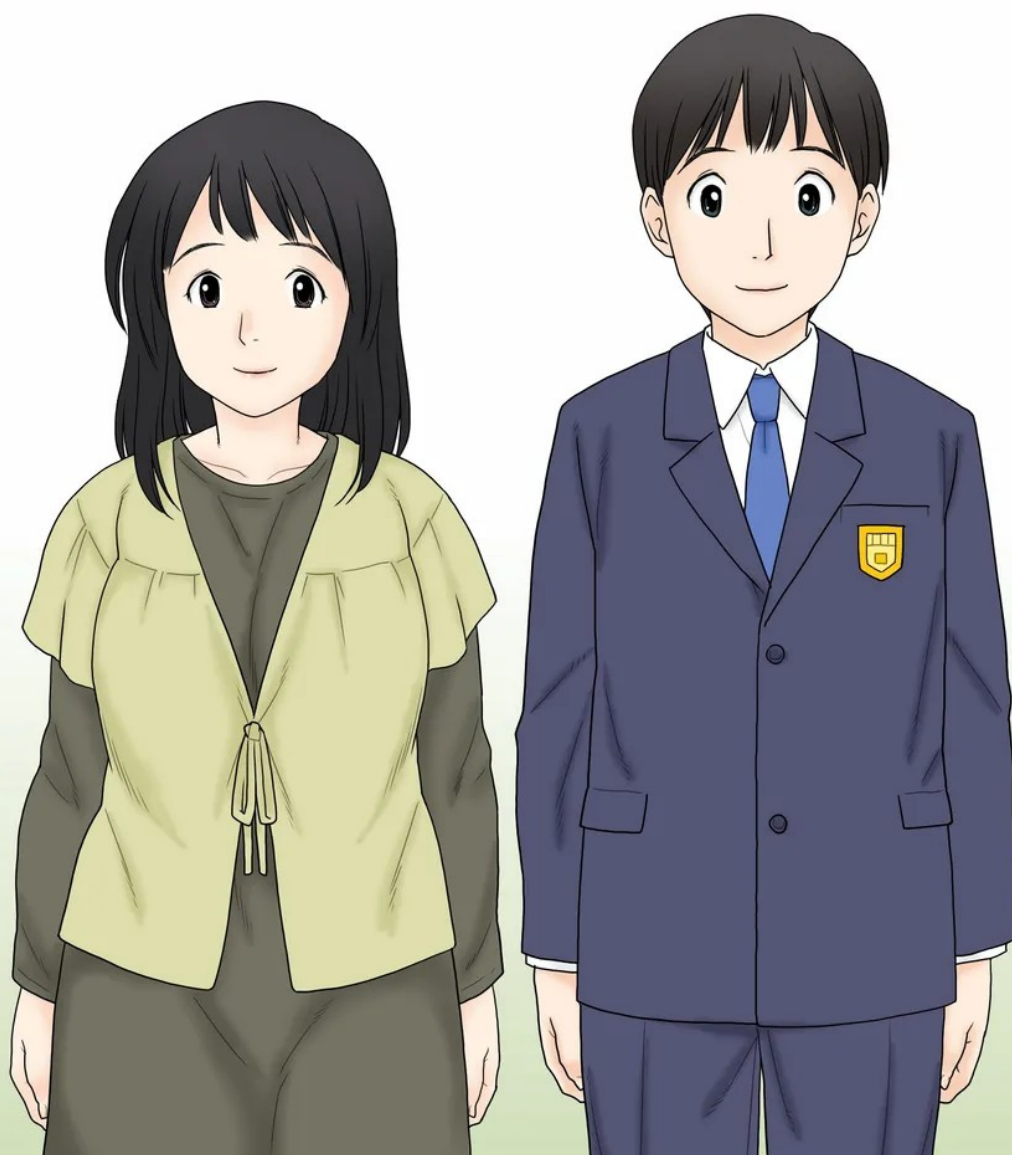
「ね 姉ちゃん
締めるのは無しっ」

「ああ」





初体験から6年後の姉と弟





「正月ぶりの里帰り」

「あれ？姉ちゃん
なんで？」



「みのる
ただいまあ」

ガチャ

「お母さんたち 旅行中なんですよ？
みのるがさみしがってるんじゃないかと思ってるね」

「冗談はいいから
どうしたんだよ」

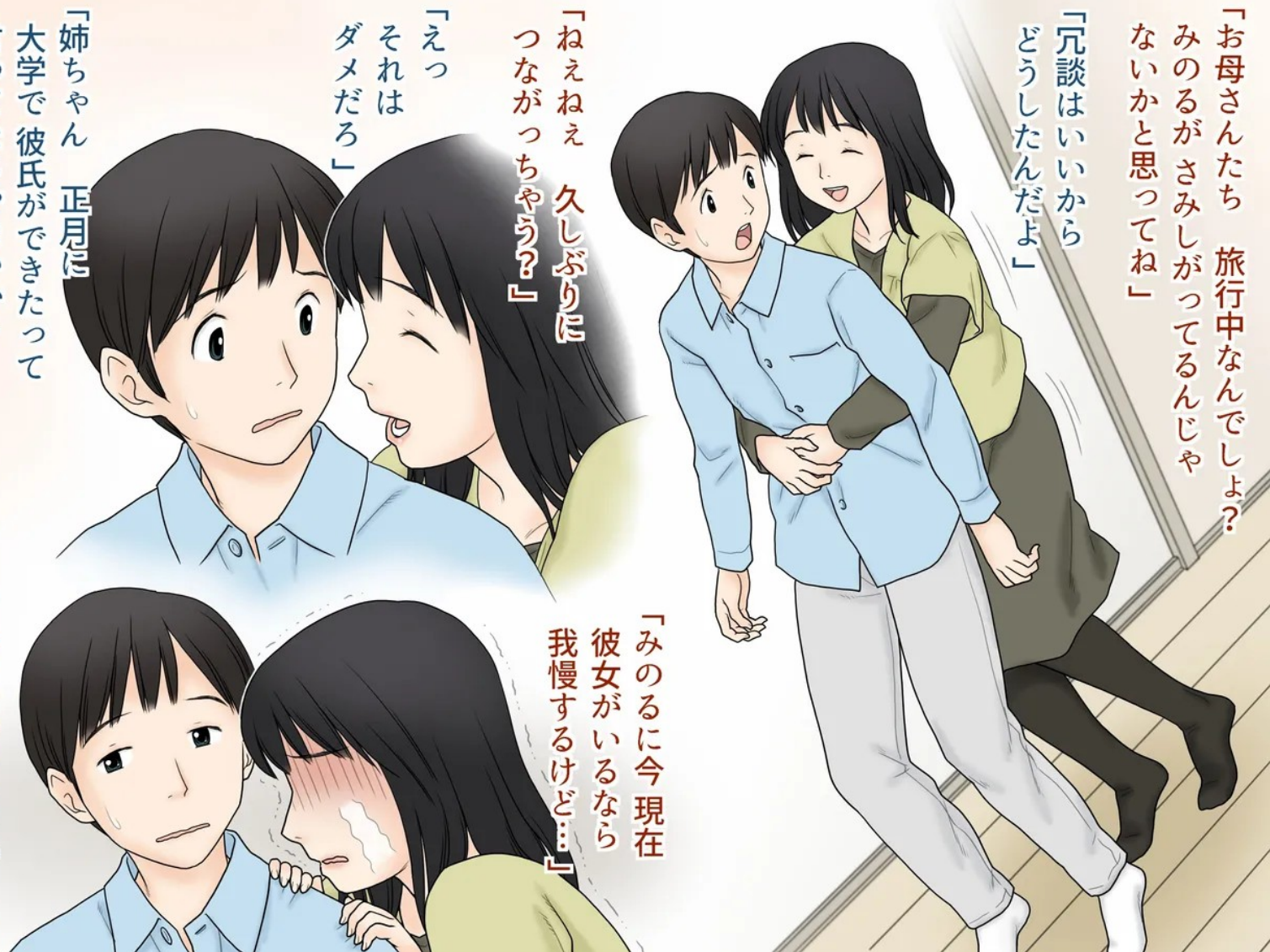
「ねえねえ 久しぶりに
つながっちゃう？」

「えっ
それは
ダメだろ」

「みのるに今現在
彼女がいるなら
我慢するけど…」

「姉ちゃん 正月に
大学で彼氏ができたって
言ってたじゃないか」

「そういうことか…」





「ね 姉ちゃん なにそれ」

「舌とかクチの使い方が
すごいんだけどっ」

れろっ
れろっ

ちゅばっ
ちゅばっ

「じゃあ
入れるわね」

「入れるって
後ろ向きで？」

「ふふっ」

「ね 姉ちゃん
どうしたの？」



「さあみのるクン
パーティーの
はじまりだよ」

「ぽ…
パーティー」

「わっなに
この動き」

「次はこれ」

「えっ」

「ね 姉ちゃん
タマもんでる？」

むにゅ

むにゅ

むにゅ
ぐにゅ

「ふふっ

みのるのおちんちんがひくついでる」

「出るときは言ってね

今日は

危ない日だから」

「えっ いや

だったらもう

やばいっ」

ガクッ

もみ、

もみ、

ガクッ

「タマをもむとか

ありえないし

いつ出るか

わかんないって」

「ギブアップ？」

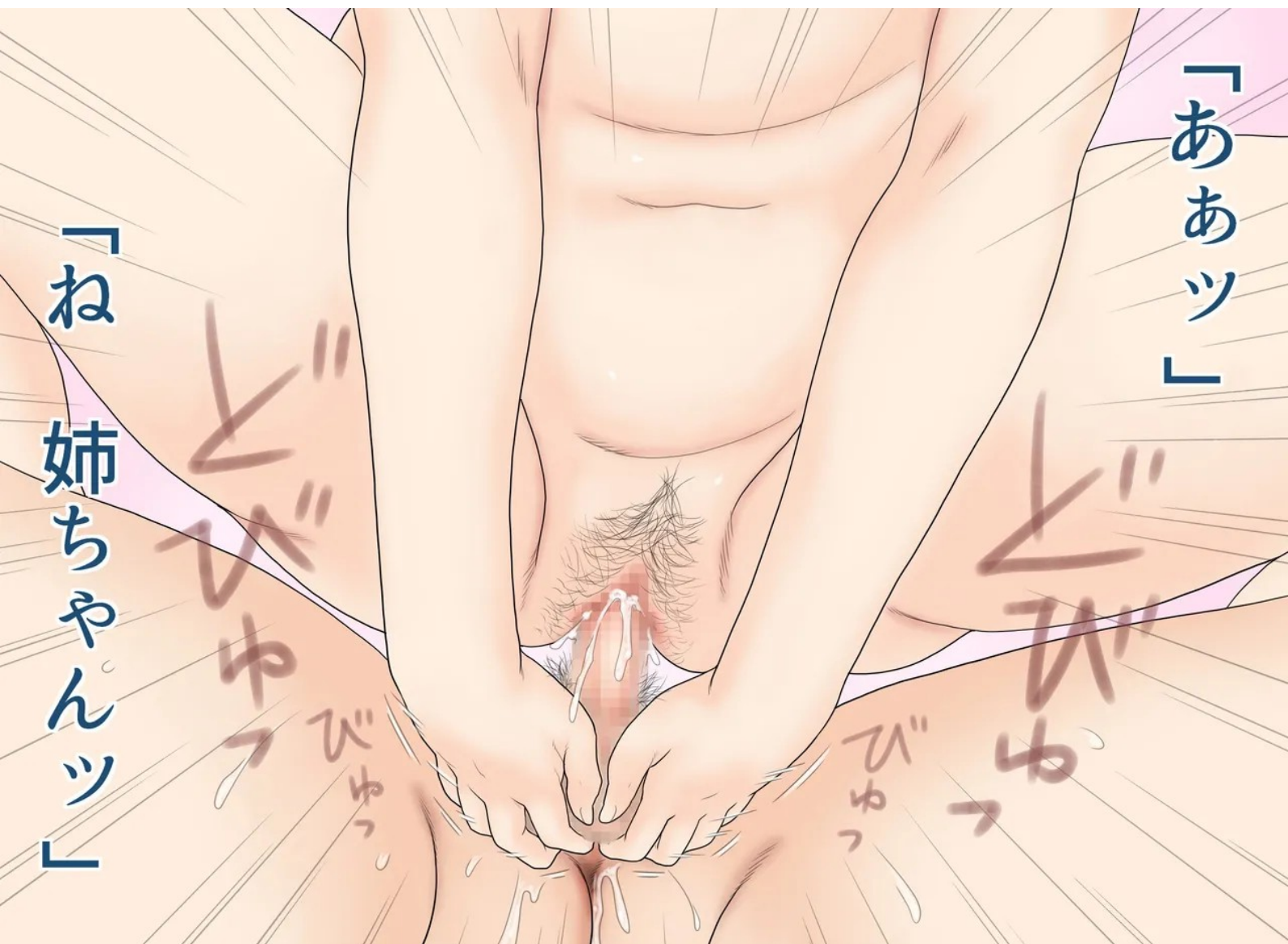
「ギブッ

ギブだからッ」



「ああッ」

「ね
姉ちゃんッ」



「わっ
わ…」

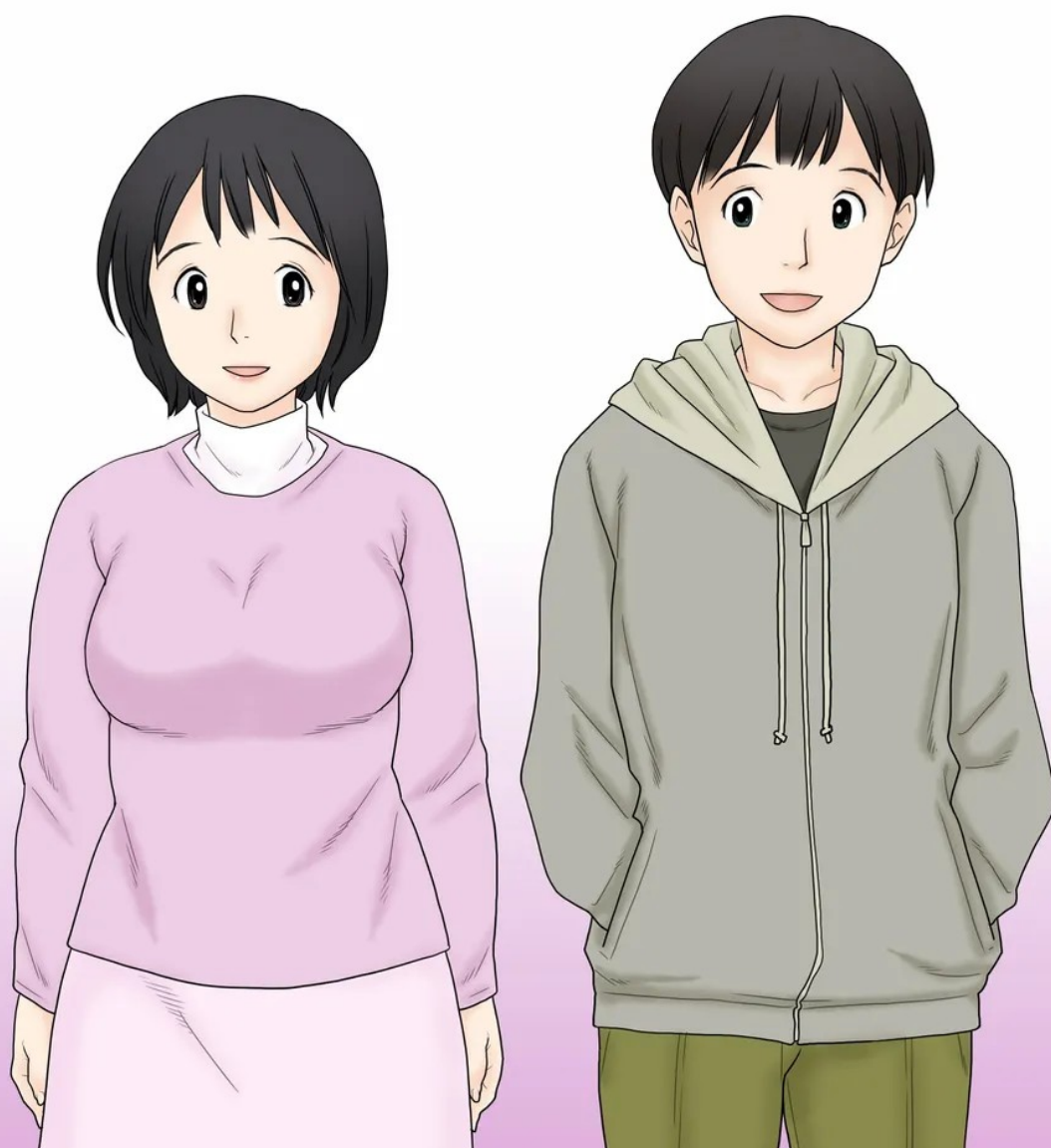
「ふふっ
みのるのその顔」

「冗談よ
今日は
安全日だから
全部出しちゃって」

「…姉ちゃん
都会に行つて
変わったな…」



初体験から8年後の姉と弟



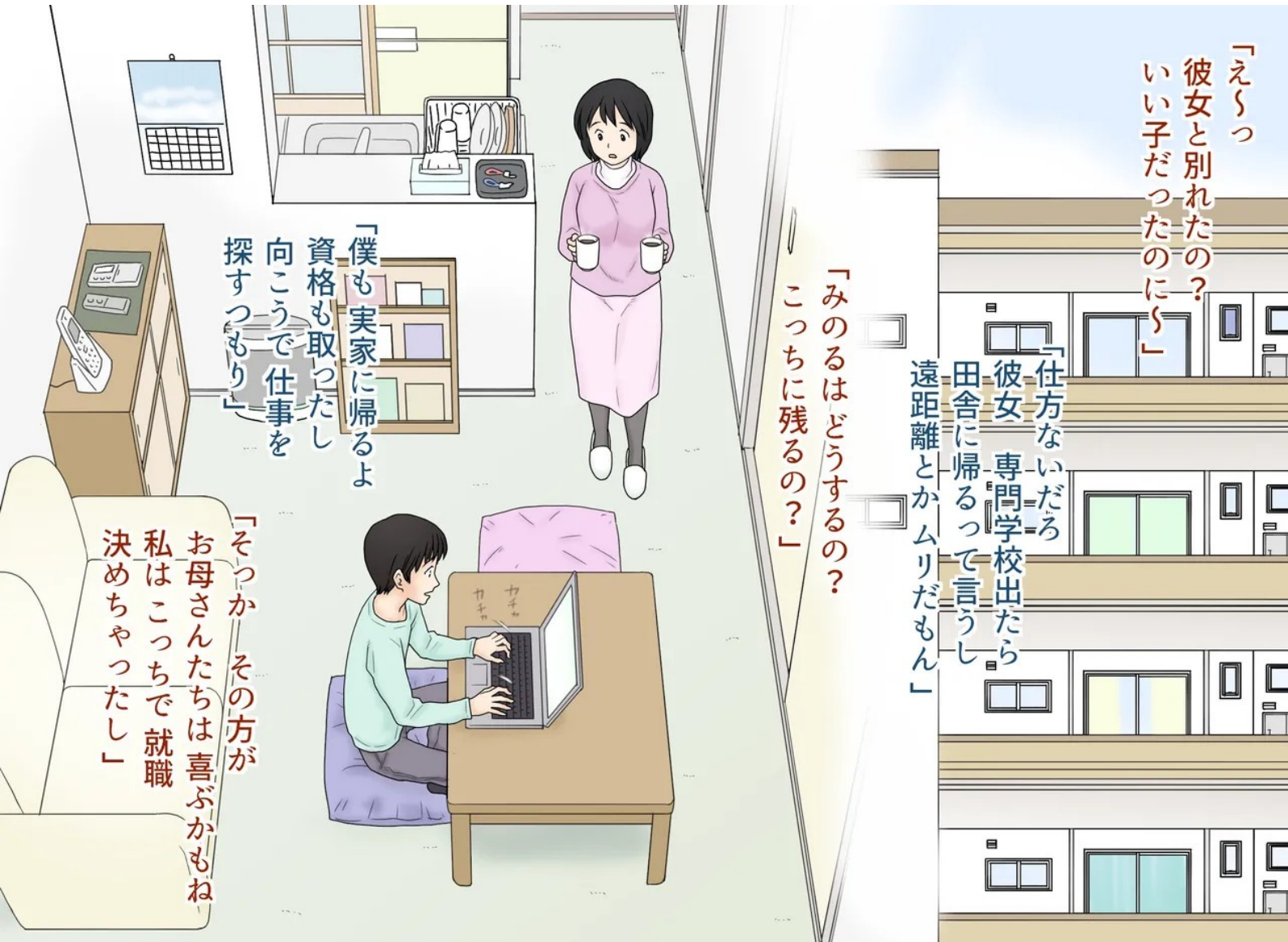
「えっ
彼女と別れたの？
いい子だったのに」

「仕方ないだろ
彼女 専門学校出たら
田舎に帰るって言うし
遠距離とかムリだもん」

「みのはどうするの？
こっちに残るの？」

「僕も実家に帰るよ
資格も取つたし
向こうで仕事を
探すつもり」

「そっか その方が
お母さんたちは喜ぶかもね
私はこっちで就職
決めちゃったし」



「あらあ
みのるが帰っちゃうと
またひとり暮らしに
逆戻りね」

「また彼氏でも
作れば？」

「そろねろ……」

「……でもその前に……
久しぶりに お互い
ひとり身になったわけだし……」

「ん？」

「しょっか」



「みのる
ゴムある？」

「無いけど…
外に出すよ」

「つていうか

始めの頃って
ずっと生だし
中に出してたよね」

「姉弟だと結婚できないから
子供もできないって
本気で思ってたのよね」

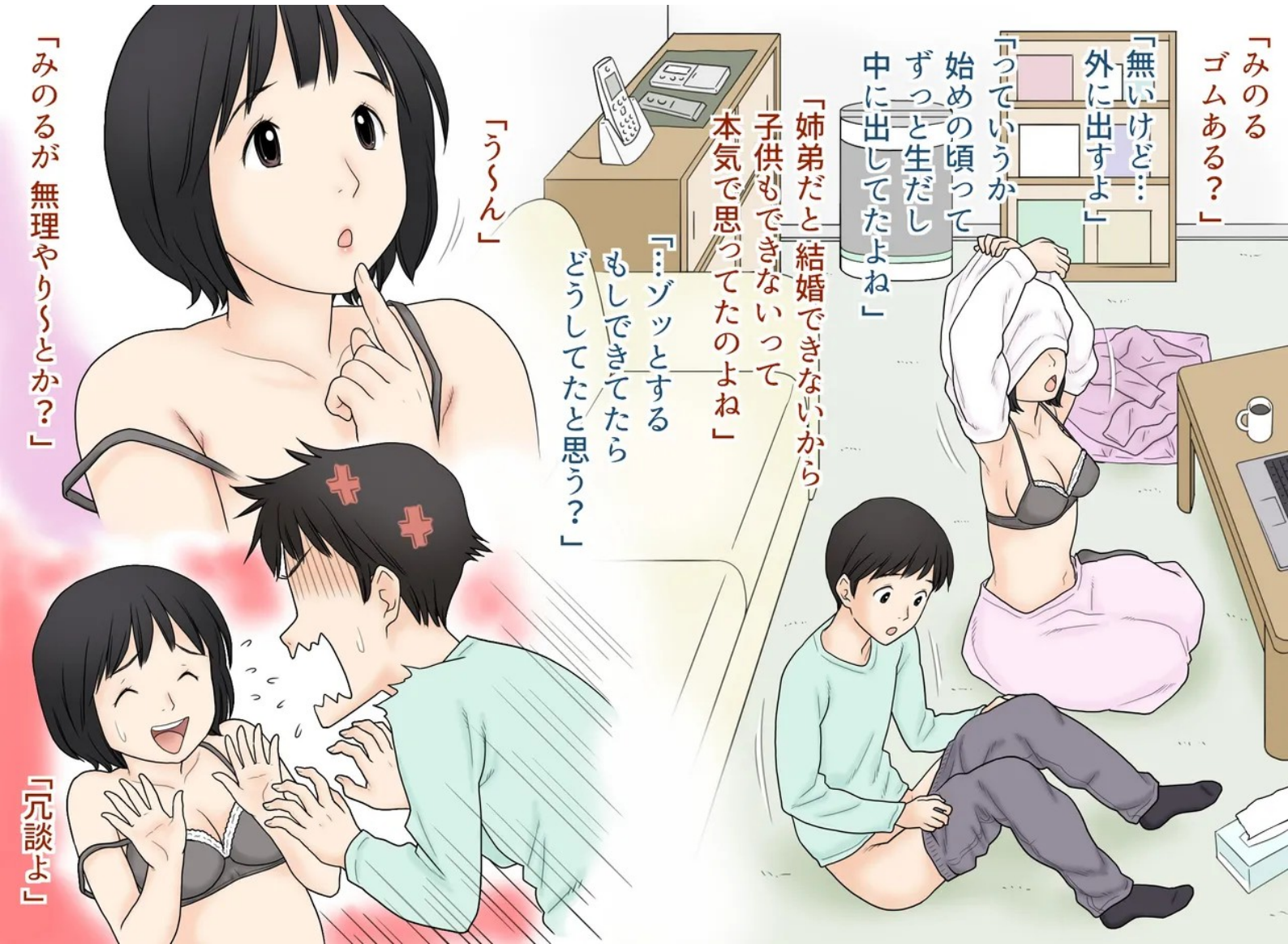
「…ゾツとする

もしできてたら
どうしてたと思う？」

「うん」

「みのるが無理やりとか？」

「冗談よ」



「入れるよ
姉ちゃん」

「みのもとつながるのって
一年ぶりくらい？」

「うん

たぶん

そのくらい」

「あ…」

「入った」

ぬぬ…

「ああ この感じ…
なんだか懐かしい気持ちに
なっちゃう…」



「はじめてのときこうやって
つながってる部分を
一緒に見たよね」

「覚えてる」

「みのるのおちんちんに
毛が生えはじめた頃ね」

「姉ちゃんのだって
ただの割れ目
だった頃だよ」



「もう二人とも
すっかり大人の性器ね」

「んっ…」

「んっ…
みる…」

ぬ
ぶっ

ぬ
ぶっ

ズ
ブ
ブッ

ズッ



「あゝ
やっぱり姉ちゃんの中が
一番気持ちいいっ」

「う うん お姉ちゃんも
みのるのおちんちんが
一番ぴったりくるっ」
「やっぱり姉弟だから
相性がいいのね」



「ね 姉ちゃん
とまらないッ」

「とめないでッ」

「みのるの
おちんちんを
お姉ちゃんの
中でもっと
感じさせてッ」





「ああッ」

ど
びゅ

びゅ

びゅ

びゅ

ビュン

ビュン

ブルッ

ブルッ

「み

みのるッ」

ぎゅん



「はあ
はあ」

「姉ちゃん
出てるっ」

「ぶるん
ぶるん」

「いいいから
もっとお
あーっ
みのるの射精
本当に
気持ちいいっ」

「姉ちゃん…」

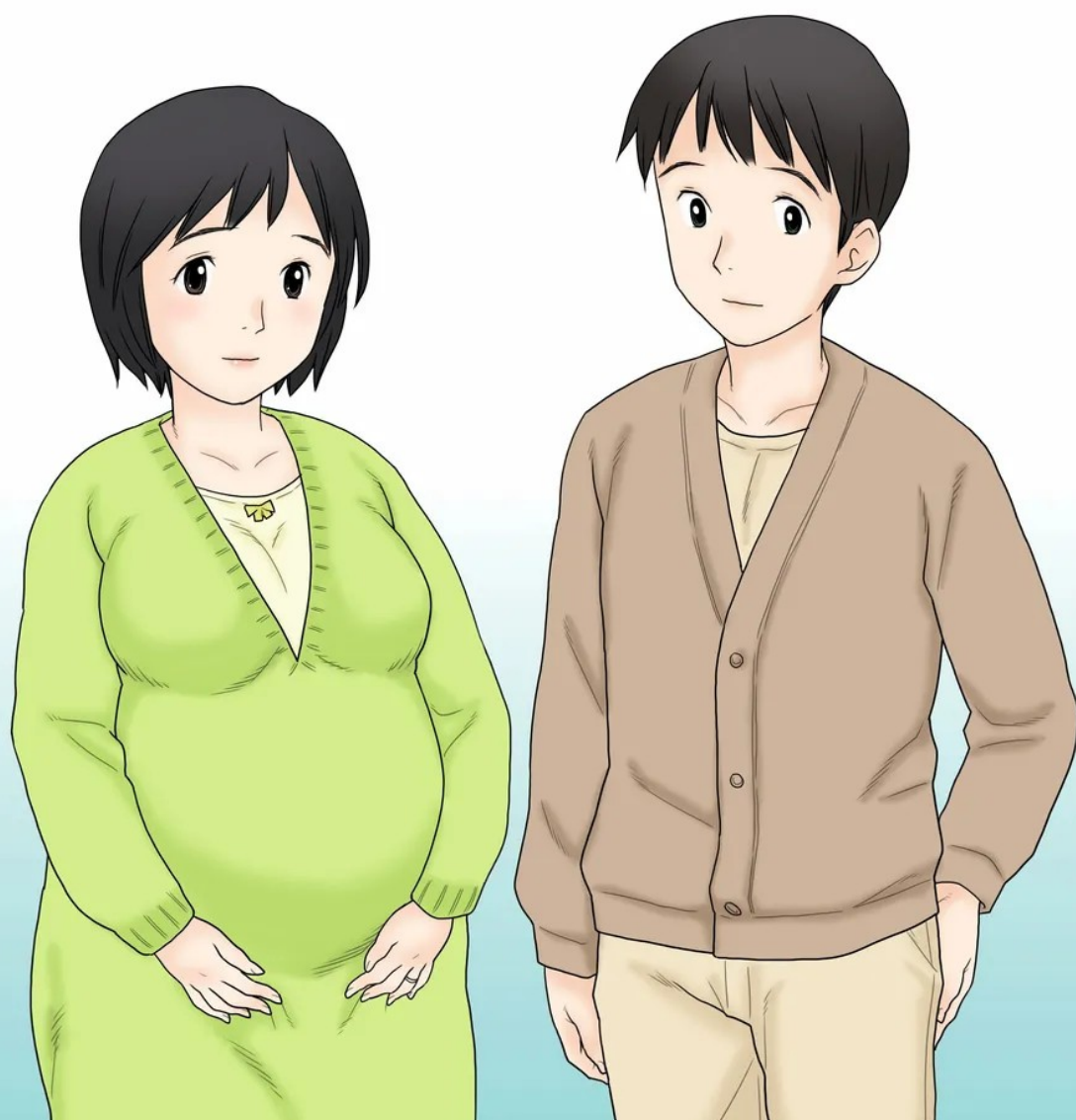
ぬぽ
ぶゅ

ゴ
ッ

「みる…」



初体験から10年後の姉と弟：



エピソード（弟）

実家に戻った僕は
新しい仕事と彼女に恵まりました…

…そして彼女との結婚を前に
ある検査を受けたのです



「あなたの精子は正常です」

「ほっ…」

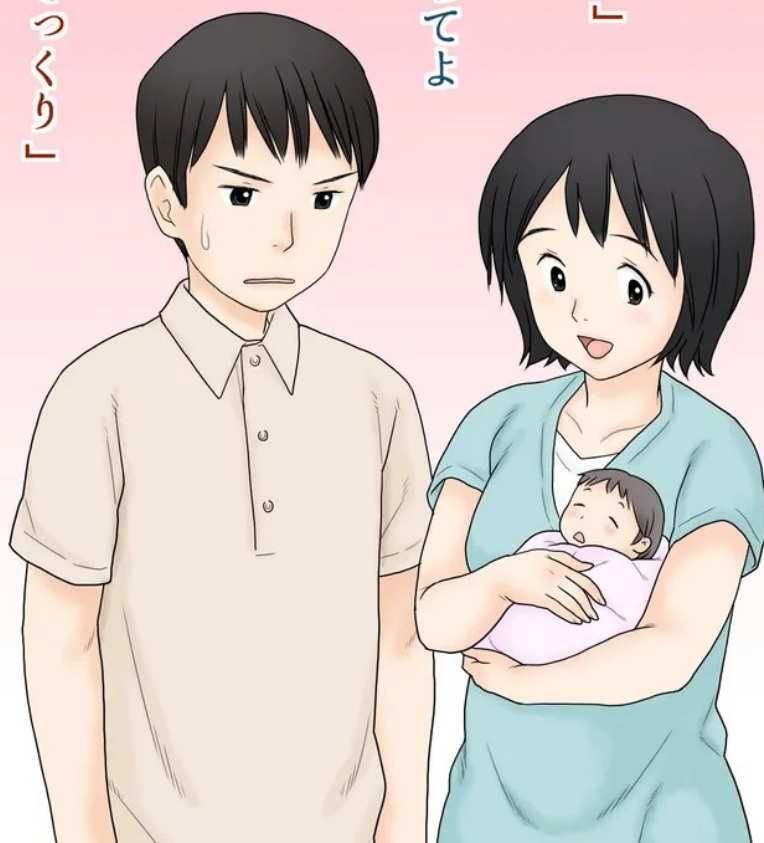
エピソード（姉）

みのるが実家に戻った後
おつきあいをはじめた年上の彼と
結婚して間もなく妊娠…
無事元気な赤ちゃんを出産しました

「はい
本当のパパ
でちゅよ」

「冗談はやめてよ
姉さん」

「冗談？
でもほら
鼻の形とか
みのるにそっくり」



「えっ ……って
僕と姉さんの鼻が似てるんだよ
姉弟なんだから」

性行為を覚えてしまった姉と弟のその後

完

お買い上げありがとうございました

最後の最後まで
エピローグを入れるか入れまいか
悩みまくりましたが入れちゃいました

この姉弟には深刻な感じは似合わないかな
と思ったので…

あと秋尚

